

# 平成28年度 学校評価

西陵中学校

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・本時の目標提示とまとめの徹底 ・校内授業研究の推進	・学習確認プログラム等の結果 ・授業チェックシート
	家庭学習の充実	・家庭学習課題の取組 ・基礎テストの実施	・家庭学習は十分ですか
	読書活動の習慣化	・朝読書の継続実施 ・学校図書館を利用した授業の展開	・生徒に読書する姿が見られますか ・図書館の利用状況
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・挨拶・時間・掃除を指導の3原則と位置付けた取組	・生徒の挨拶はしっかり出来ていますか ・家庭での約束やルールは守れていますか
	生徒会活動の充実	・学校行事をつくりあげていく指導の展開	・生徒に十分な説明をする力がついてきていますか
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	・基本的生活習慣の確立 ・人権教育の計画的実施 ・防煙、非行防止・薬物防止教室の実施	・起床・就寝等時間を守る態度は身についていますか ・生徒に自ら解決しようとする態度がみられますか ・生徒に健康を意識した態度がみられますか
	健康に対する意識の向上		
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同研修会の実施 ・小中授業研修会の実施	・小中合同の取組実施回数 ・小中連携会の実施状況



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
95.5%の保護者が子供は楽しく学校に通っている＋2.5P、また70.4%が授業を理解できているという－8.6Pの回答であった。	生徒の学年ごとに見た「授業が分かる」というアンケート項目では、どの学年も若干ポイントが上がったが、大きな伸びは見られなかった。	学力に不安を抱える生徒への手立てとして、現在も行っている補習の充実や、家庭学習課題の個別設定など、学年・教科で対応していくこと
毎日の家庭学習課題の提出率は約90%あり、保護者の目に触れていないものの家庭での学習習慣はついてきていると考えられる。	未提出者についても昼休み・放課後を利用して提出するよう指導を継続している。未提出者は少なくなったが、提出できない生徒の家庭での学習	家庭学習の質や量は重要であるが、提出のためではなく生徒自身の目標に向け、積極的に学力を伸ばそうとする指導を充実させる必要がある
保護者アンケートで読書に対し「できている」という回答は約37.5%で、生徒の回答もほぼ同じであることから、6割近い生徒はほとんど読書をし	テレビ・ゲーム・スマートフォンなど、生徒の日常的な生活リズムの中に定着しており、大きな改善は見られなかった。何とか読書習慣を身に付	現在、朝読書に取り組んでいるが、具体的な目標を立て、朝の10分程度の読書が有意義なものになるよう工夫する。また、図書室の活用も充実さ
保護者からは、あいさつについて82%、ルールを守ろうとする態度については90%が出来ているとの回答であった。	登下校時や校内でも気持ち良く挨拶ができるようになった。学習規律も含め集団としての学校生活における習慣として定着してきた。	現在の取り組みを継続し、地域における実社会の中でもTPOに合わせた正しい行動がとれる態度を身につけられるよう指導する。
保護者からは1年生で47%と変化はなかったが、3年生では80%と＋18P上昇した。	生徒アンケートの「グループ学習は役に立っているか」の質問で、平均すると「役に立っている」との回答に大きな変化は見られなかった。	授業の中で、相手の考えを聞くこと、自分の考えを述べることを取り入れているが、さらに効果的な展開を研鑽していきたい
時間については75%、解決しようとする態度については71%と、ポイントは僅かにマイナスであるが大きな変化はなかった。	生徒アンケートの就寝時間で11時以降との回答は、中間報告と比べても大きな変化は見られなかった。1時以降と回答もいまだに見られる。また、今年度は8:25以降に登校する生徒の人数が増えたことも気になる点である。	現在、中学生としての生活のあり方・考え方を正しく理解し、心身ともに健康な状態を維持できるよう指導する。各生徒が自分の1日の時間に対し、無駄と無理のない計画ができるよう指導することが必要と考えられる。
2か月に1回のペースで3校校長が会合を持ち、また研究主任・生徒指導部長・教務主任が連携を取り合同行事の計画を進めることができた。	次年度の計画についても、各校の行事等を踏まえ調整に向けた話し合いを行うことができた。できるだけ急な変更が無いよう進めたい。	ブロックの教職員一人一人の意識を高めることを課題として三校が協働できる体制を整えるため、校長・主任の連携をより進めることが重要である。



学校関係者評価	
評価者	学校評議員
学校関係者による意見	学校評議員による改善に向けた支援策
ここ数年は学校の雰囲気も安定し、本当によくなったと感じている。子供は少なくなり、大変な面もあると思うが、地域の子供たちが生き生きと活動できるよう、頑張っていたきたい。読書なども、結果だけでなく継続することも大切だと思うし、すぐに結果が出るものでもないと思う。	今の世の中は、いろんなことが次から次へと変化していくが、昔の良いところ・新しい面はあるだろうが、学校はうまく取り入れて、これからの時代に粘り強く適応できるよう育ててほしい。
子ども達はしっかり育っていると感じる面も多い、挨拶をきちんとしてくれる子供も増え、落ち着いた印象が強い。子どもが少なくなったとはいえ、行事や部活動でも一生懸命取り組んでいることが伝わり、大変良かった。	西陵文化まつりなどでも、子供が活躍してくれることが地域にとっても活力となる。地域で子どもを育てるということを、地域でアピールしていくことが大切。
子供が少なくなったということはあるが、遅い時間に行っている子供を見ることが少なくなった。挨拶をきちんとしてくれる子供も増え、落ち着いていると感じる。	地域での子育てということを、大切に継続しなければいけない。地域の高齢化も進んでいるが、地域の行事の中でも中学生に活躍してもらえる場面を作っていきたい。
小学校と中学校が一緒に教育していることはとても大切だと思う。積極的に連携してほしい。	地域としてできることについては積極的ににかかわっていきたい。

## 次年度の課題

- ・学力向上を最重要課題と全教職員が認識し、日々の授業改善、家庭学習指導を充実を図る。朝読書の取組が定着してきたので継続して、読書習慣が身につくようにしていく。
- ・生徒会活動の充実ができたことを評価しあい、生徒の自己有用感の高揚や教員の指導力向上・取組の発展を目指す。
- ・地域との繋がりを大切にし、地域行事に生徒が参加しやすい環境・条件を整えていく。
- ・小中一貫教育の推進を図る。